



ソーシャル企業認証制度を創設しました

— 社会課題の解決に取り組む企業を応援します —

京都信用金庫は、社会課題の解決に取り組む地域企業を応援することで地域経済の持続的成長を支え、企業と消費者が連携して社会課題に立ち向かう仕組みづくりを推進し、地域におけるソーシャルマインドの醸成と持続可能な社会の実現を目指します！

ソーシャル企業認証制度とは？

地域の社会課題の解決や**ESG経営**を目指す企業に対して、経営理念や方針、事業内容、社会へのインパクトなどを基準に評価し認証する制度です。

持続可能な社会を実現することで未来の地球環境や人々の暮らし、社会を守るために、企業にも積極的な関わりが期待されている**SDGs**。地域の中小企業においても、企業価値の向上や新たなビジネスチャンスを獲得するためのツールとして注目されつつあります。

そこで当金庫は、社会課題の解決に取り組む地域企業の成長を支えるべく「ソーシャル企業認証制度」を2020年12月に創設しました。



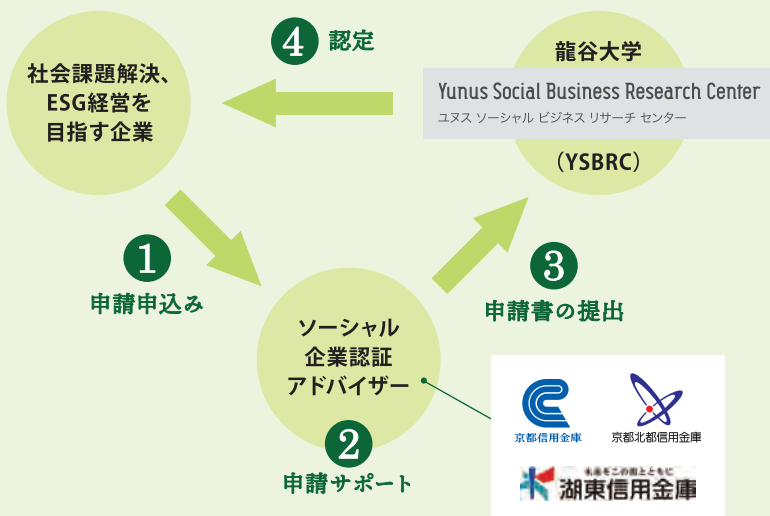
(左より)京都北都信金、京都信金、YSBRC、湖東信金により創設

ESG経営

ESGはEnvironment(環境)・Social(社会)・Governance(企業統治)の頭文字を取った略語。ESG経営とは、この3つの要素に配慮した経営により企業の持続的な成長を目指すもので、将来的なSDGsへの貢献にもつながる。

Sustainable Development Goals (SDGs)

2016年からの15年間で達成すべき世界共通の目標として、国連で採択された。日本語訳では「持続可能な開発目標」。「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「働きがいも経済成長も」「つくる責任つかう責任」などの17の目標達成を通じて、持続可能な社会の実現を目指す。



企業が認証を取得するメリットって？



1

企業の社会的信用度の向上やイメージアップにつながる

2

資金調達や業績にプラスの効果が見込める

3

働きがいを感じられる企業風土が醸成される

4

就職活動における新たな企業選定の軸の一つになる

認証取得の流れ

STEP 1

自社の事業と社会課題の関係性を見出す



お客様のご事業についてお聞かせください。社会課題の解決への寄与について、当金庫の職員と一緒に確認させていただきます。

STEP 2

申請手続きを行う



ソーシャル企業の認定には申請が必要です。認証取得のための計画策定から申請書の記入まで、当金庫の職員がサポートします。※1

STEP 3

認定証を受け取る



認証が取得できると当金庫ホームページでの公表のほか、龍谷大学ユネスソーシャルビジネスリサーチセンターより認定証が届きます。

STEP 4

京信と一緒に事業の持続的な成長を目指しましょう



認定企業同士のコミュニティ（就職セミナーやビジネスマッチングなどの場）を設けるなど、認証取得後も当金庫は地域のソーシャル企業を応援します。

※1「環境」「地域」「働き方」などに関連する様々な社会課題の解決に対して、お客様のご事業がどのように寄与しているかを、当金庫の職員と一緒に確認しながら申請書（ソーシャル企業認証申請シート）を作成します。

申請項目の例（飲食店の場合）

- 地元産の食材を使うことで地産地消に取り組んでいる
- 食べ残しを飼料に活用している
- アレルギー対応の商品を提供している
- 使用する電力を自然エネルギーにしている
- ストローなどの使用素材を自然由来のものにしている
- 労働時間の短縮など、健康経営に取り組んでいる など

“世のため人のため”に考えましょう！

ソーシャル企業認証制度は、認証の取得を目指す企業が地域の社会課題の解決に取り組むきっかけになるだけでなく、経営者や従業員の方が一緒に自社のあり方を考える機会にもなります。当金庫は、皆様と一緒に「事業を通じてどのような地域の課題を解決できるか」「どのような取組が世の中の役に立つのか」を考えます。ぜひ私たちと一緒に持続可能なご事業の成長と地域社会の実現を目指しましょう！



京都信用金庫 理事
ネクストコミュニティ共創部長
山口 一剛

【お問い合わせ先】 京都信用金庫 ネクストコミュニティ共創部

☎ 075-211-2111(代表) (受付時間 平日9:00～17:00)

梅小路エリア活性化プロジェクト!

—「クリエイティブタウン」を目指して—

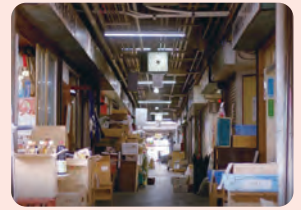
梅小路に集まり始めた若者たち

京都水族館、京都鉄道博物館の開業。そして2019年3月の梅小路京都西駅の開業。京都市中央卸売市場の再開発も進む**梅小路京都西駅周辺**は今、まちづくりの大きな変革の時期を迎えています。

一方で、空きビルや使われなくなった倉庫などが立ち並ぶ市場周辺の街並みの静けさ。その「京都らしくない」独特の空気感に魅せられた若いアーティストやクリエイターたちが、自分たちのスタイルを自由に表現できる空間としてこの地域に集まり始めました。



▲中央市場の様子



▲ものづくりのための新しい空間

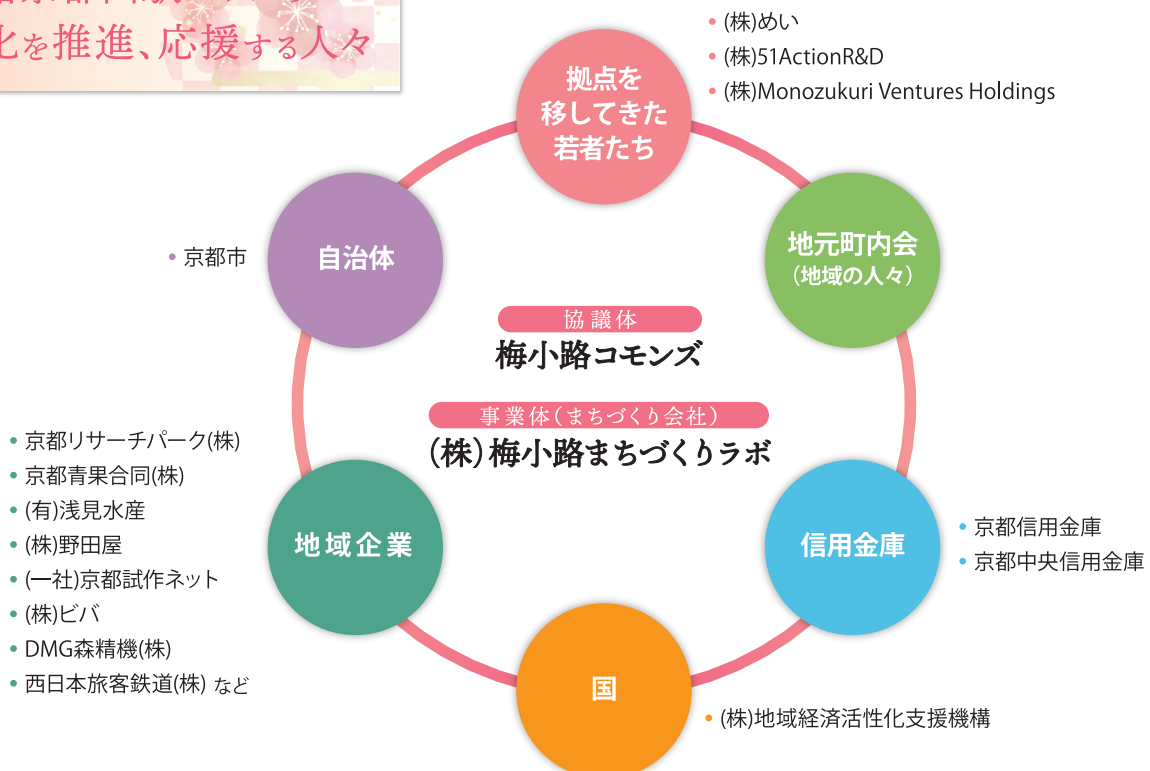
共感の輪で広がったプロジェクト

そんな若者たちと、かつてのまちの賑わいを取り戻したいとの想いを抱く中央市場関係者や自治会をはじめとする地域の人々。そしてその想いに共感した当金庫が声をあげ、若者たちや地域の人々、企業、自治体と一緒に梅小路エリアを『**クリエイティブタウン**』の拠点とするプロジェクトがスタートし、連携協定を締結。

2020年12月には、梅小路エリアの活性化を推進するための「株式会社梅小路まちづくりラボ[※]」を設立しました。

※梅小路京都西駅エリアにおける「クリエイティブタウン」化の推進に関する連携協定を締結した14者(株式会社めい、株式会社51ActionR&D、株式会社Monozukuri Ventures Holdings、一般社団法人京都試作ネット、株式会社ピバ、京都青果合同株式会社、株式会社野田屋、有限会社浅見水産、本政和好(大内学区自治連合会会長)、DMG森精機株式会社、京都リサーチパーク株式会社、京都信用金庫、京都中央信用金庫、株式会社地域経済活性化支援機構)および関係各所が参画する事業体として設立、運営。

梅小路京都西駅エリアの活性化を推進、応援する人々



みんなが共感できるまちづくりを

梅小路まちづくりラボでは、「テック×アート×食」をコンセプトに人と人とのつながりを大切にしながら、ものづくりや芸術制作、食文化を発信していきます。

3Dものづくり塾やアート展、食と工芸のマルシェ、タウンミーティングなどの多彩なイベントを開催予定。地域の皆様と一緒に、「観光客のためだけではない、住民や市民も共感できるまちづくり」を実践します。

歴史を守りながらも
伝統と革新をブレンドし、
京都というまちが100年先も
京都らしくあるために。



▲ 事務所兼倉庫の空き家をリノベーションし、交流拠点として活用するイメージ



▲ 賑わう梅小路エリア(将来イメージ)



Interview

株式会社めい
代表取締役 扇沢 友樹様

豊かな暮らしにはクリエイティブが必要不可欠だという想いに共感し、このプロジェクトへの参加を決意しました。近現代において世界の様々な地域で倉庫街にクリエイターが移り住み、文化や産業や街が発展していったケースは珍しくありません。梅小路エリアは、京都においてまさにその土壌として最適なまちです。10年、20年と時が経ち、未来の京都の人たちに「梅小路があったから、京都らしい新たなカルチャーや作品が出てきたよね」と思ってもらえる、そんなプロジェクトにしていきたいです。



Cスクエアバックナンバーはこちらからお読みいただけます！
[Click!](#)